

速報 デンタルダイヤモンド9月号

スペシャル・シンポジウム

歯周治療の新潮流“化学療法”を探る

ついに、大学から本格的な追試論文が出始めました。

ジスロマックを使用した“化学療法”の優位性が詳述されています。

さらに前田伸教授（鶴見大学口腔細菌学）は次のような記述をされました。

44 ページ「いままで抗菌薬、抗真菌剤と呼ばれていたものが、たんに抗菌的に働く、抗真菌的に働くのではなく、たとえばバイオフィルムを叩くとか、MMP を抑制するとか、あるいは宿主の細胞を活性化するというような、知られていない働きがあるのではないかと思います。」

ついに、出始めたと言う感じです。

また、鴨井教授（現歯周病学会理事長）は次のような記述をされています。

48 ページ「とりあえずスクレーリングをやりましょう、それで歯肉の反応をみましよう。治らなければ外科処置をやりましよう。だから、まったく戦略もないし、歯周基本治療、外科治療、メンテナンスという流れのワンパターンだったのです。」

長い夜が明けて、朝日が昇り始めた・・・そう感じています。

国際歯周内科学研究会 会長 生田 隼南